



「投資動向に関するアンケート」調査結果

<第3回調査>

2009年9月1日

【本調査の目的】

2009年6月の第一回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは、口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施することになりました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるとい形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて、遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の国政選挙など、市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2009年8月12日(水)16:00～2009年8月19日(水)16:00

※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『ネクスト総合口座』、『FXトレード口座』のいずれか一方、または両方に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの取引画面内にアンケートを公開。

今回の有効回答数は、6161件。

※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

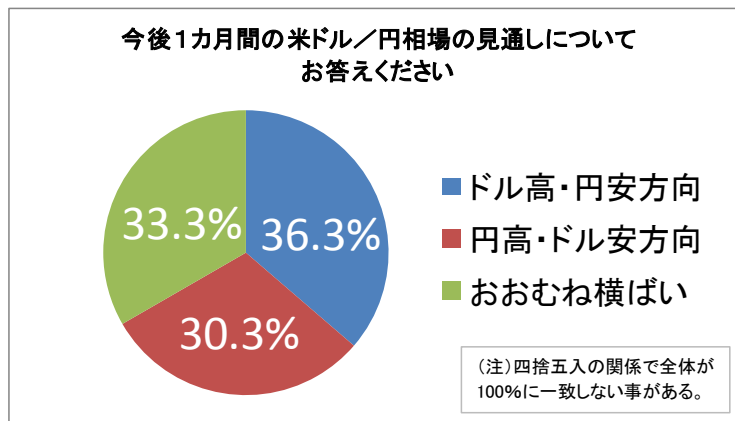
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2009 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第3回調査結果の略報】

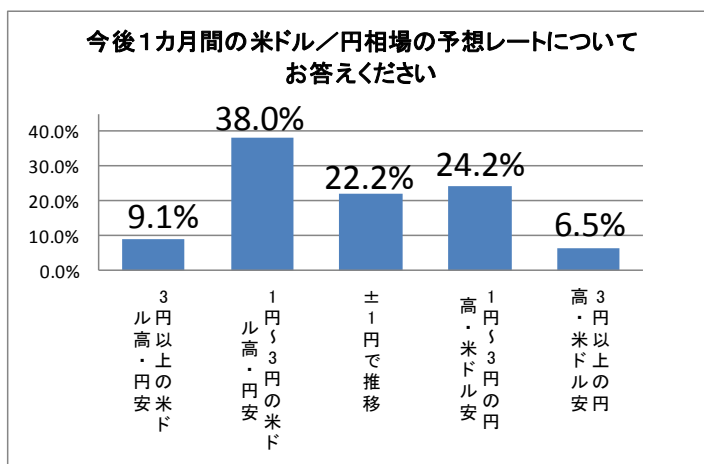
問1: 今後1カ月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

今後1カ月間のドル円相場見通しについては、「ドル高・円安方向」と答えた割合が36.3%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合が30.3%となった。この結果、「ドル円予想DI」は+6.0%ポイントと、前月の+1.0%ポイントから更に上昇した。調査期間中のドル円相場は、月初に記録した97円台から95円台割れまで円高が進行している最中だったため、FX取引特有の「逆張り心理」が刺激された可能性が高い。あくまで調査時点での結果だが、どちらかと言うと90円台前半では値ごろ感が喚起され易かったようだ。ただし、その一方で「順張り」の円高予想組も相応の勢力を維持しており、一方的なドル強気心理が広がった訳ではない。



問2: 今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

今後1カ月間のドル円相場の予想レートについては、「1円～3円程度のドル高」と答えた割合が38.0%と最も多く、「1円～3円程度の円高」予想が24.2%、「±1円以内」が22.2%、「3円以上のドル高」が9.1%、「3円以上の円高」が6.5%という順番になった。問1に示された回答結果とおおむね整合的な結果で、ドル高予想の割合が前月に比べて増加している。ただし、円高を予想する向きも相応の勢力を維持していることから、前回調査同様、ヒストグラムの形状は「逆W字型」の特徴を維持している。前回調査との比較では、値ごろ感からのドル高予想が増えたものの、全体としては方向感を見極めにくいという雰囲気が如実に表れている。

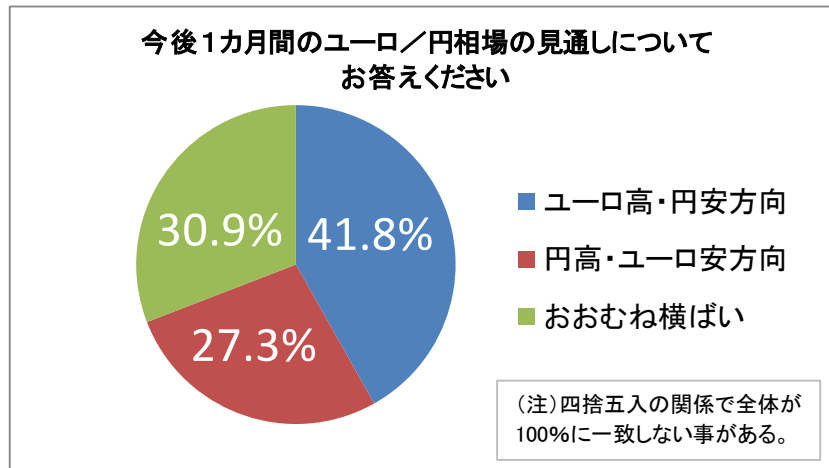


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2009 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

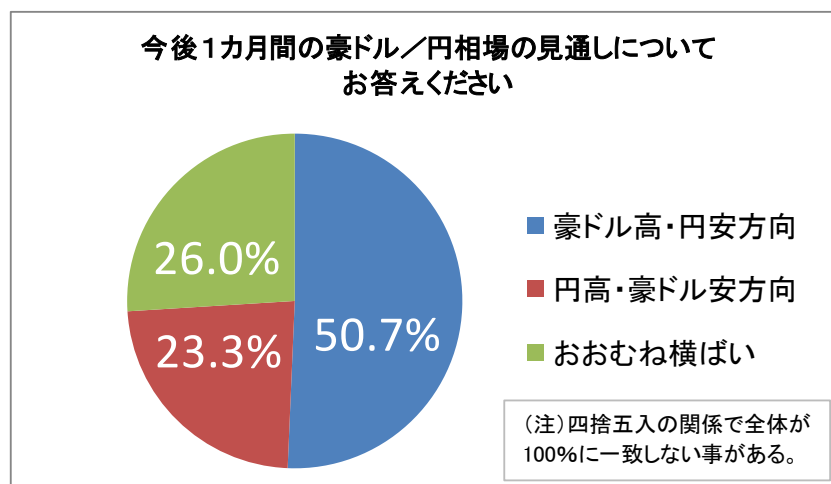
問3: 今後1か月間のユーロ／円相場の見通しについてお答えください

今後1か月間のユーロ円相場見通しについては、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が**41.8%**であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が**27.3%**となった。この結果、「ユーロ円予想DI」は**+14.5%**ポイントと、前月の**+12.0%**ポイントに比べ、小幅ながら更に上伸した。調査期間内のユーロ円相場では、ドル円相場同様に急激なユーロ安・円高が進行しており、「逆張り心理」の微増に寄与したものと推測される



問4: 今後1か月間の豪ドル／円相場の見通しについてお答えください

今後1か月間の豪ドル円相場見通しについては、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が**50.7%**であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合が**23.3%**となった。この結果、「豪ドル円予想DI」は**+27.4%**ポイントと、前回調査の**+19.2%**ポイントから急増した。8月上旬に82円近くまで上昇していた豪ドル円相場が調査期間中に80円を大幅に割り込んでいく過程で、ドル円相場、ユーロ円相場同様、豪ドル円相場においても「逆張り系強気派」の勢力が増えたと見られる。本調査を始めてまだ3カ月だが、過半数が豪ドル強気になったのは、今回が初めてである。



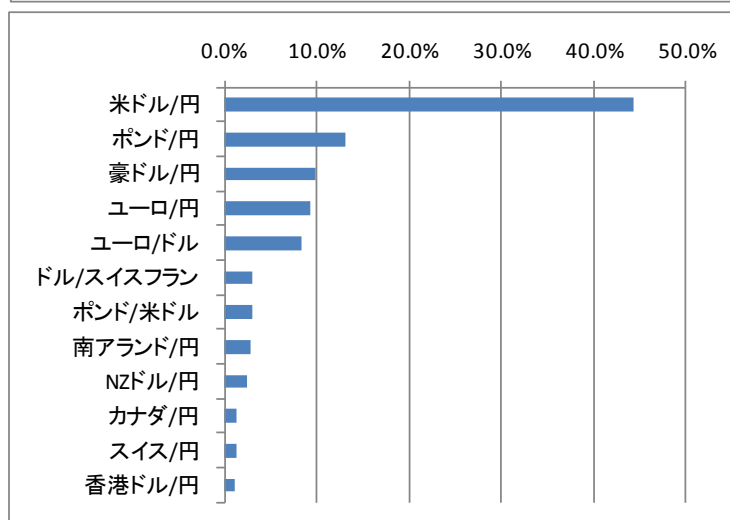
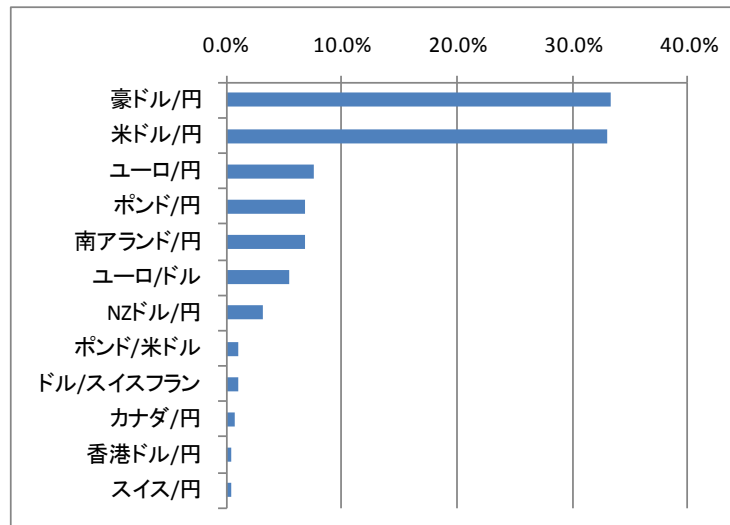
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2009 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

今後注目している通貨ペアについて尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、1位豪ドル円(33.3%)と、2位米ドル円(33.1%)が、人気を2分した状況であった。以下は、3位ユーロ円(7.5%)、4位ポンド円(6.9%)、5位南アランド円(6.8%)の順となっており、先月から若干の順位の変動はあるものの、上位5ペアは同じ顔ぶれだった。一方、「売り」で注目されている通貨ペアの順位は、1位が断トツで米ドル円(44.3%)となっており、以下は、2位ポンド円(13.2%)、3位豪ドル円(10.0%)、4位ユーロ円(9.4%)、5ユーロドル(8.3%)の順で続いている。

米ドル円は買いでも売りでも注目される通貨の地位を維持しており、入手可能な情報量の多さや流動性の高さなどから、強気あるいは弱気の相場観とは無関係の「売買の対象」として見た場合、最も人気の高い通貨になっている。一方、「買い」で非常に注目されている豪ドル円は、「売り」での注目度が相対的に低い。先述の「逆張り心理」に加え、「先進国通貨の中で最も高い短期金利水準の魅力」などが影響しているのかもしれない。

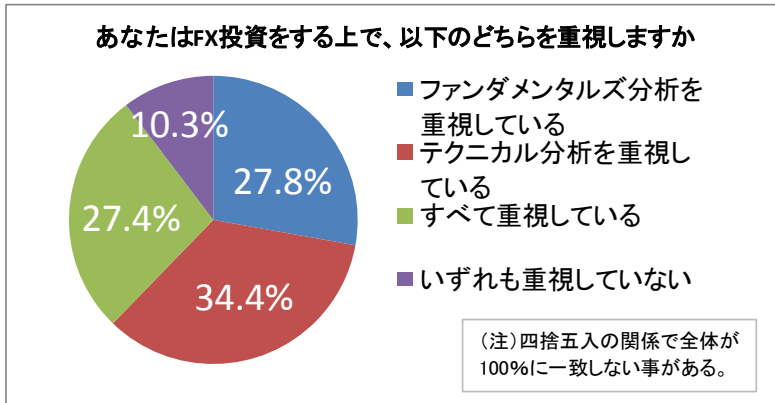


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2009 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

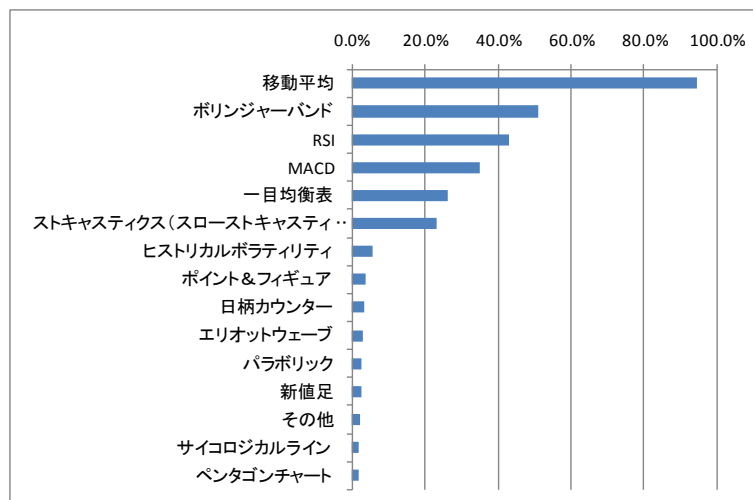
問6: あなたはFX投資をする上で、以下のどちらを重視しますか?

「FX投資の際に重視する分析手法」については、「ファンダメンタルズ分析を重視する」と答えた割合が27.8%であったのに対し、「テクニカル分析を重視する」と答えた割合が34.4%と、テクニカル分析を重視する投資家の割合の方が高かった。「すべて重視している」との回答割合が27.4%、「どちらも重視していない」が10.3%であった。過去2回の調査結果と比較してみた場合、回答割合に目立った変化は生じていない。今後相場環境が急激に変化する局面において、個人投資家の分析手法の好みが変わるか否かが注目される。



問7: テクニカル分析では何を主に活用していますか?

「テクニカル分析で主として活用している手法」について複数回答可として尋ねたところ、「移動平均(94.6%)」が最も高く、「ボリンジャーバンド(51.2%)」、「RSI(43.1%)」、「MACD(34.8%)」、「一目均衡表(26.3%)」、「ストキャスティクス(23.2%)」の順番で並んでいる。個人投資家に人気のテクニカル分析手法の顔ぶれはあまり変わっておらず、今回も一番人気は移動平均分析だった。ただし、いわゆる「トレンド系」と「逆張り系」に分けてみた場合、今回はボリンジャーバンドやRSIなどの逆張り系の人気上昇しており、先の主要3通貨ペアの相場観調査に表れていた「逆張り志向」の台頭が、ここでも強く表現されている。

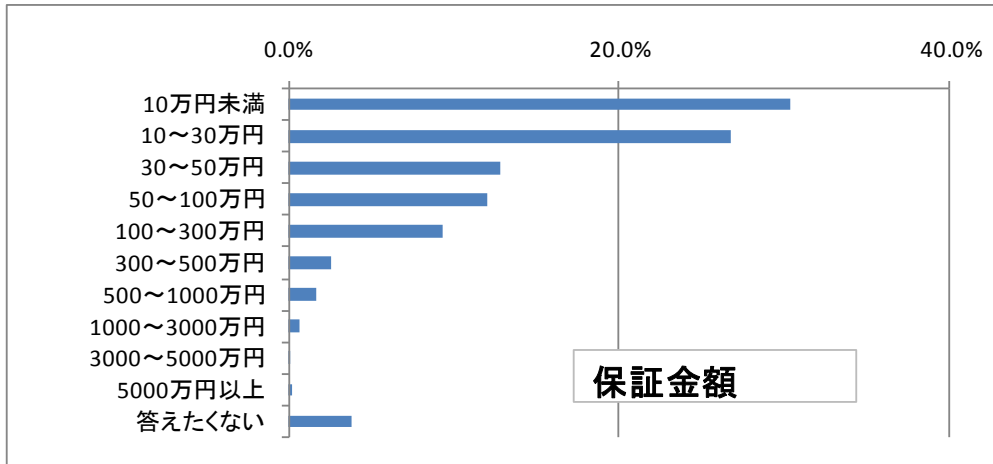


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2009 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

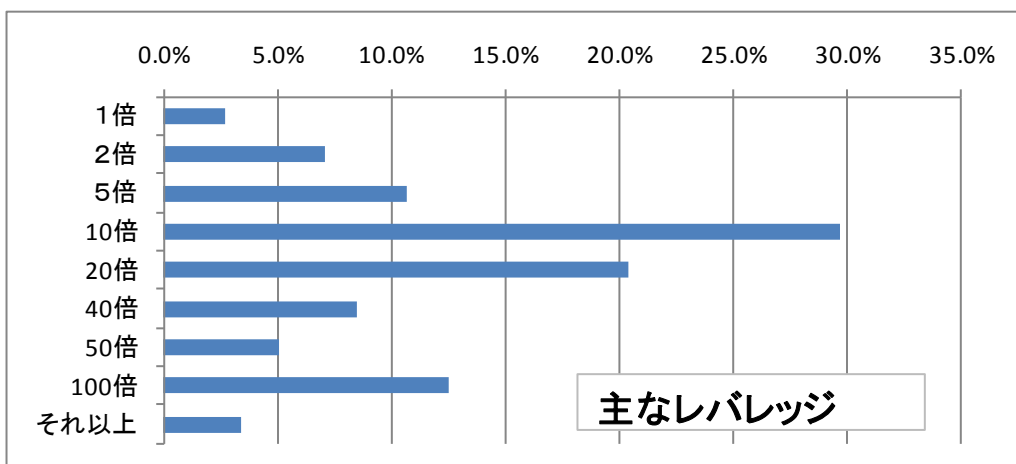
問8: FX取引の際の保証金の額についてお答えください

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、10万円未満と答えた割合(30.4%)が最も多く、10~30万円(26.7%)が2番目に多かった。回答者の過半数は、30万円以下に分布しているのが特徴だ。以下、第3位は30~50万円(12.8%)、4位は50~100万円(12.0%)となっており、その先の回答割合の順番も、基本的に保証金額の大きさと反比例の関係にある。不特定多数の小口投資家に分散しているFX投資家層のすそ野の広さを暗示する内容になっていると言えるだろう。



問9: FX投資の際、主に何倍のレバレッジを活用していますか？

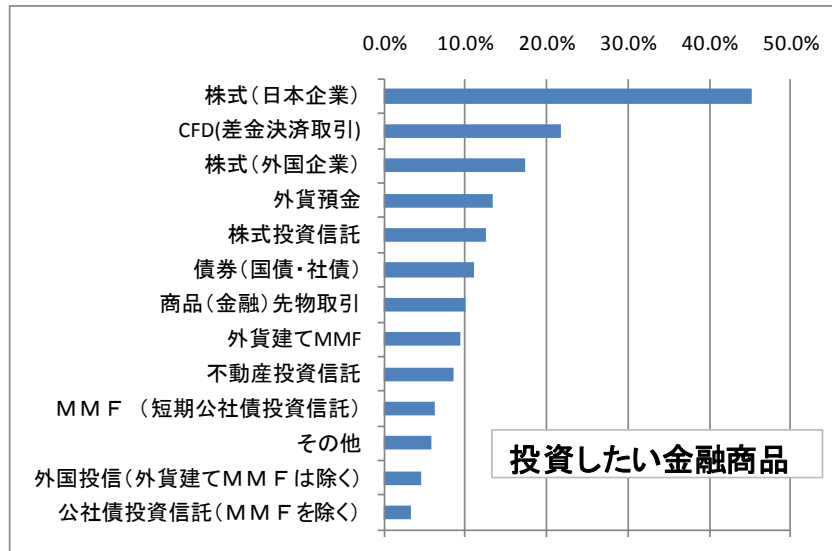
FX投資の際に主として活用しているレバレッジについて尋ねたところ、10倍と答えた割合(29.7%)が最も多く、20倍(20.4%)が2番目に多かった。これに次ぐ3位が100倍であったが、その比率は12.5%であり、「それ(100倍)以上」と答えた3.4%を合わせても2割に満たなかった。外国為替保証金取引について、高レバレッジの投資家層の「武勇伝」が一部の媒体で喧伝されることもあるが、今回のアンケート調査に応えた個人投資家の70.6%は20倍以下の倍率を主として活用している。上記問8の回答結果と合わせ、比較的堅実なFX取引の実態が示唆されている。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

問10: 今後投資してみたい金融商品は？(いくつでも)

「今後、投資してみたい金融商品」について、複数回答可として尋ねたところ、「株式(日本企業)」が45.2%と最も多く、以下、「CFD(差金決済取引)、21.8%」、「株式(外国企業)、17.4%」、「外貨預金、13.4%」、「株式投資信託、12.6%」、「債券(国債・社債)、11.0%」、「商品(金融)先物取引、10.1%」の順番であった。回答結果から判断する限り、本邦のFX取引参加者は、そのリスク許容度の高さにおいて成熟度が比較的高めの投資家が多いと言えそうだ。



【今後の調査実施計画及び公表方針】

第3回目の調査になった今回から、前回調査、前々回調査との時系列比較が可能になり始めています。統計分析に深みを持たせるために必要不可欠な長期間の時系列比較を提示することはまだできませんが、今後、毎月定点観測で実施する調査結果の蓄積が進むにつれて、DIの時系列比較等から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などの把握も可能になってくることが期待されます。

また、8月17日に公表した臨時アンケート調査「総選挙結果が為替相場に与える影響について」のように、時宜に応じて市場で注目されているトピックをテーマにした「号外版」も、これから適宜公開していく予定です。

加えて、毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を活用した、投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年春先以降に公表する「年次白書」で紹介する予定です。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2009 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表:主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル／円			ユーロ／円			豪ドル／円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2009年	6月	21.0	35.2	-14.2	38.4	27.2	11.2	48.8	23.7	25.1
	7月	34.6	33.6	1.0	40.2	28.2	12.0	45.5	26.3	19.2
	8月	36.3	30.3	6.0	41.8	27.3	14.5	50.7	23.3	27.4
	9月									
	10月									
	11月									
	12月									
2010年	1月									
	2月									
	3月									
	4月									
	5月									
	6月									
	7月									
	8月									
	9月									
	10月									
	11月									
	12月									
	1月									
	2月									
	3月									

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2009 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com